

足高SSH通信

第64号
H30.7.31
足利高校SSH部

<http://www.tochigi-edu.ed.jp/ashikaga/nc2>

企業研修

①ねらい 企業訪問を通して、最先端の科学技術に関する理解を深め、普段の学習が実際に生産現場で活用されていることを知り、科学技術に関する興味関心、学習意欲の向上を目的として実施する。

②実施概要 日時・場所：平成30年7月11日（水）

あしかがフラワーパーク

14:50～15:40 講演「花を活かした誘客戦略」

15:40～16:20 あしかがフラワーパーク園内見学

参加者：2年国際数理コース34名

株式会社あしかがフラワーリゾート 代表取締役 早川公一郎氏（足高卒）による会社概要の説明および講演「花を活かした誘客戦略」をあしかがフラワーパーク内研修室で行い、その後、園内の見学を行った。あしかがフラワーパークは、前身である早川農園にあった大藤を、22年前に現在の足利市迫間町に移転したのが始まりであり、このときの移転費用は数十億円で、土壌には約250tの炭が敷かれたとのことである。その後、安定した集客を図るための様々な工夫（冬の手作りイルミネーションや、花の開花状況に応じた毎日の価格設定、インバウンドへの対応）や、顧客を飽きさせないための常に一步先を見据えた戦略を打ち出すことにより、現在では多いときには1日に7万人もの観光客が訪れているとのことである。講演後は、実際に大藤について説明を頂いた。大藤も単純に花の数を増やすのではなく、いかに綺麗な姿を見せるかを考えきめ細やかな管理がなされているということであった。

（文：2-6ケプラー仁・川島光輝）

③生徒の感想 ・これからも改良を続けてよりよい施設になっていって欲しい。

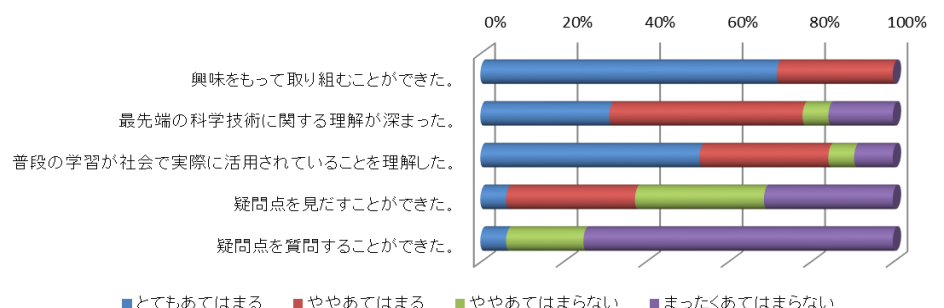
・企業戦略において、リスクの分散や海外客の誘致など先を見据えた計画が立てられ、興味深い。

・以前に来たときとは別の視点で見ることができて関心が深まった

④成果と課題 ほぼ全ての生徒が興味関心を持ち、かつ、科学技術に関する理解を進めることができた。造園土木や経営学に関する内容は初めてだったが、理解しやすい内容でもあったため生徒は意欲的に話を聞いていたので、今後の学習につなげていって欲しい。



企業研修



SSH日本科学未来館研修

①ねらい 身近な生活の中にある「はかる」という行為をとおして、最先端技術の中に潜むハイテク測量技術を調査し興味・関心を高めるとともに、科学技術を活用してよりよい社会を実現するための方策を考える。

②実施概要 7月14日(土)第1学年希望者37名が、日本科学未来館および船の科学館の見学を行った。主な展示は以下の通り。

- ・ジオ・コスモス

世界で初めて有機ELパネルを使い、球体(地球)を表現。1000万画素を超える超高解像度で地球の姿をリアルに写している。雲の画像は気象衛星のデータを毎日取り込んでいる。

- ・ASIMO

身長は130cmで私たちと生活しやすいサイズ。体重は8kgでドラえもんより軽い。二足歩行型ロボットだが、バランス能力が高く、指の動きが起用。ロボットと共に生活するのも夢ではない。

- ・体を新しくする幹細胞

幹細胞とは、分裂して増える能力と、体の様々な部位の細胞になる能力(分化)を持つ細胞である。体性幹細胞、ES細胞、iPS細胞などがある。病気の解明や再生医療に期待が持たれている。

- ・宗谷

初代の南極観測船である。第二次世界大戦では海軍の特務艦、戦後は引き揚げ船、灯台補給船と様々な活躍をしてきた。船内は南極観測船時の状態がほぼ保たれて展示されていた。

(文1-1岡野純大、1-3川島颯真、1-4金井利樹)

③生徒の感想

- ・ロボットについて特に興味を持った。
- ・インターネットの仕組みが球体モデルで表現され、とてもわかりやすかった。
- ・「9次元から来た男」の映画を見て科学者の偉大さを知った。

④成果と課題 体験的な学びを通して、科学技術の進展とその活用について楽しみながら学ぶことができた。また、未来館の展示は学ばせるだけではなく、考えさせることも展示の方針となっている。疑問点を持つことで、課題研究を進める上での土台を作っていくて欲しい。

